

京都市における 地理空間情報の取組について



京都市

建設局監理検査課技術管理第二担当

大

京都市公共物GISについて

経過

- ▶ 平成17年度 「京都市公共物GIS」導入
国から譲与された里道・水路等の管理業務
導入以降も機能の追加・改修等
路線図管理、工事の進行管理、占用許可、市民要望、基準点情報
管理等の業務で活用
- ▶ 平成29年度～平成31年度 システムの再構築
- ▶ 令和2年度 「認定路線網図提供システム」等の構築
「京都市都市計画情報等検索ポータルサイト」公開
京都市の認定道路や都市計画情報等をWebで公開
「みっけ隊」アプリとの連携
市民が道路や公園等の損傷箇所を投稿できるアプリ
- ▶ 令和5年度 タブレット端末を用いた道路附属物や公園施設の
点検システムとの連携
- ▶ 令和6年度 「道路台帳管理システム」の構築
「認定路線網図提供システム」の拡充
道路台帳平面図や基準点等の情報を市民向けにWebで公開

大

「京都市公共物GIS」の活用による道路情報等の公開

背景と課題

- ・認定道路（道路法に基づき認定され、本市が管理する道路）の道路台帳調書は紙媒体で管理
- ・認定道路の道路台帳平面図は本市の本庁窓口でのみ紙媒体で公開
- ・道路明示図面や基準点の有無等の情報も
庁内窓口の「公共物窓口支援サービスシステム」でのみ閲覧
- ・道路基礎情報を調査する市民や事業者は市役所来庁が必要

概要と効果

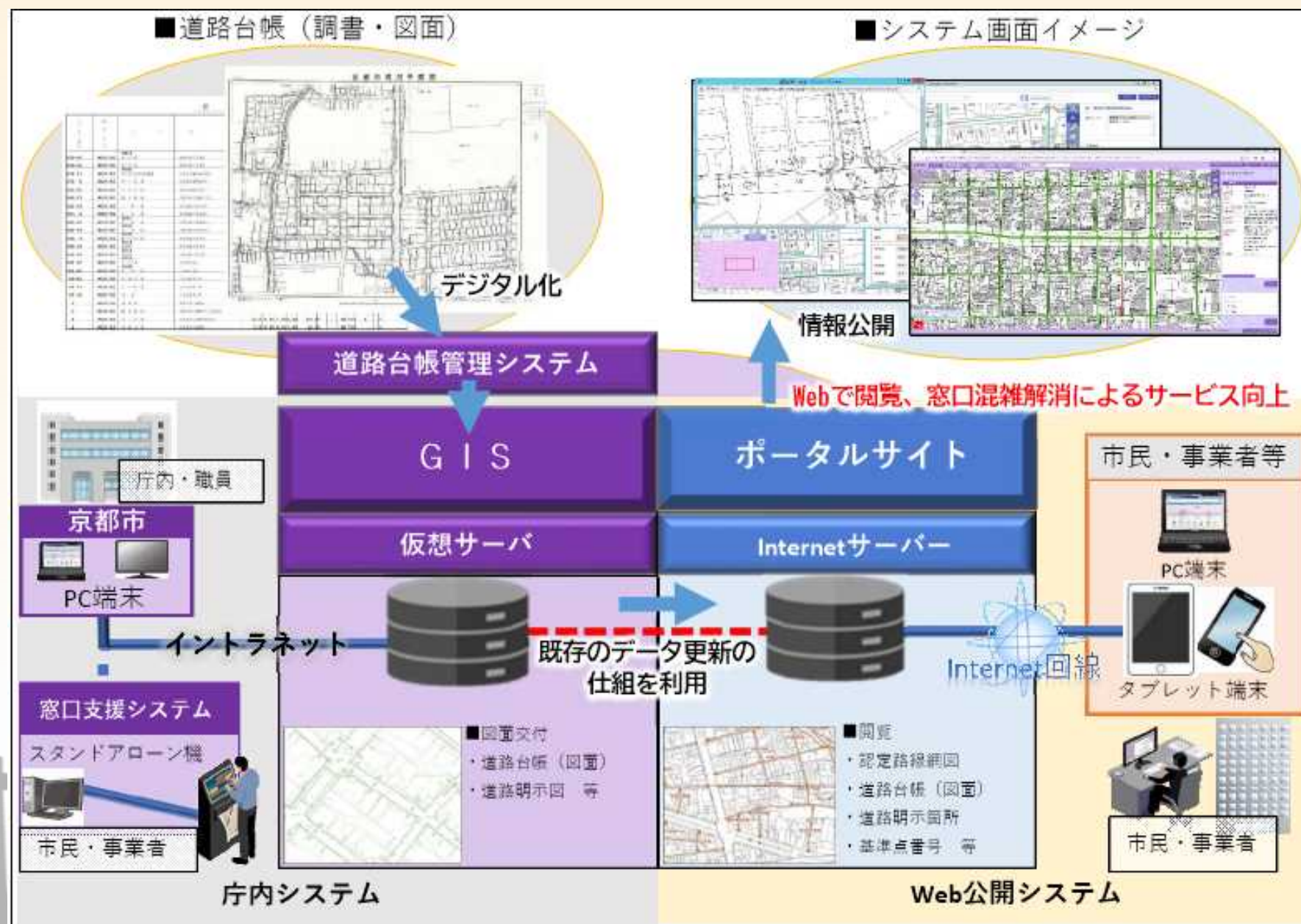
- ・紙調書・図面を電子化し、道路情報を自動で集計する「道路台帳管理システム」を構築
- ・「道路台帳管理システム」と「京都市公共物GIS」の連携による一元管理
- ・既存の「認定路線網図提供システム」を拡充し、電子化した調書・図面データ、道路明示図番号、基準点番号等を閲覧できる「道路情報等提供システム」として市民向けにWebで公開（R6.3～）

行政サービス向上



「京都市公共物GIS」の活用による道路情報等の公開

システム概要



大

「京都市公共物GIS」の活用による道路情報等の公開

ポータルサイト



<https://keikan-gis.city.kyoto.lg.jp/cityplanning/portal/>



京都市道路情報等提供システム

(認定路線・道路区域明示箇所、道路台帳平面図、里道・水路、土地境界明示箇所、基準点)



京都市道路情報等提供システムでは、「ご利用条件」に同意いただくことで、京都市が管理している道路法上の道路（以下「認定路線」という。）や里道・水路等の情報を参考図として閲覧することができます。

なお、国が管理する国道（一般国道の指定区間（1号、9号、24号、171号、478号））については、国土交通省の所管部署にご確認ください。

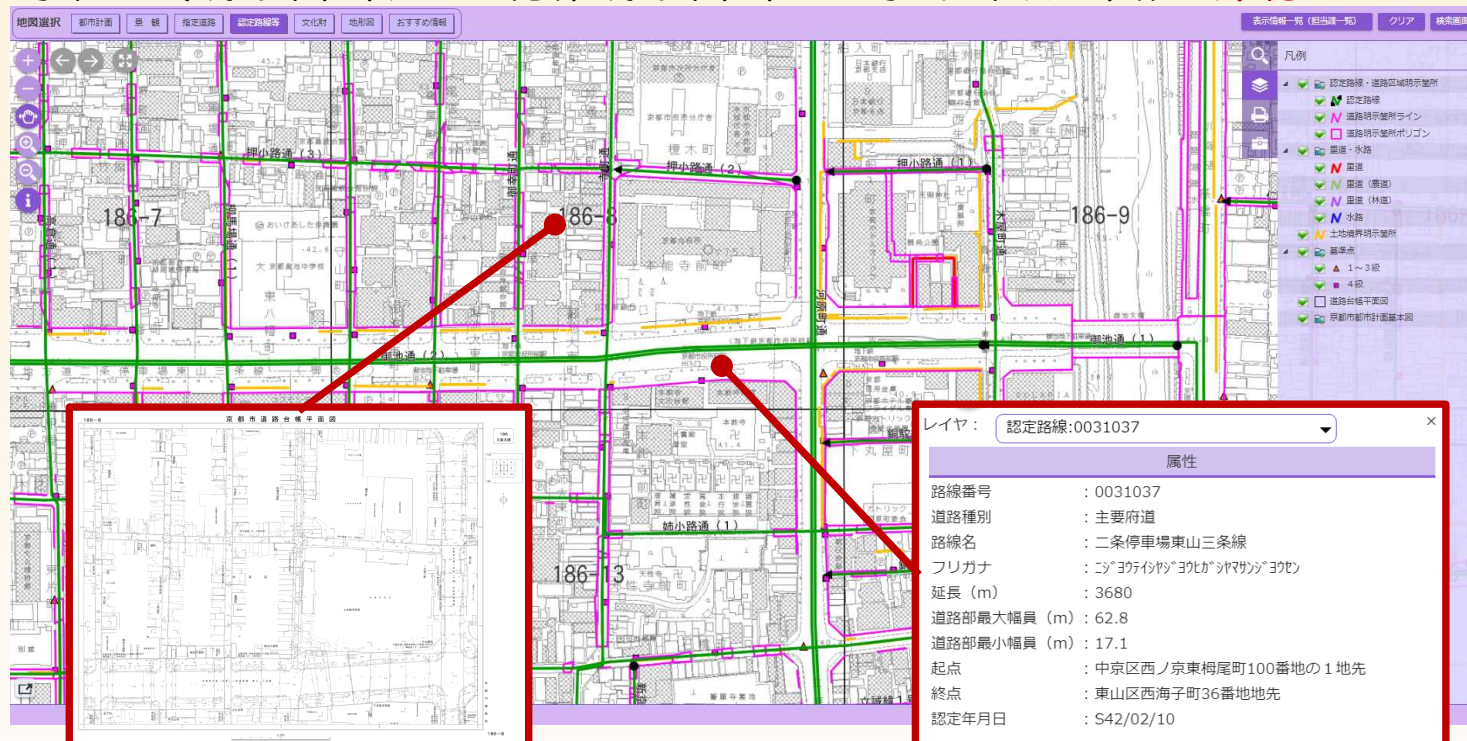
以下の情報を参考図として閲覧できます。

情報	内容
認定路線 道路区域明示箇所	充実 新規 ● 認定路線の名称及び延長、道路区域明示箇所 ※ 道路区域明示箇所は、おおよその位置を示したものです。
道路台帳平面図	新規 ● 認定路線の現況道路幅（平坦部の道路幅）や側溝の寸法等を示した図面 ※ <u>道路区域や土地境界を示すものではありません。</u>
里道・水路	新規 ● 「京都市里道管理条例」及び「京都市水路等管理条例」に基づき管理する里道・水路のおおよその位置とその情報
土地境界明示箇所	新規 ● 認定路線及び里道・水路の土地境界に関するおおよその位置とその情報 ※ 平成17年度以降に作成した認定路線の区域内にある土地境界明示図の有無については、道路明示課の窓口でご確認ください。
基準点	新規 ● 京都市が管理する1級～4級基準点の位置情報

「京都市公共物GIS」の活用による道路情報等の公開

ポータルサイト

道路区域明示箇所、土地境界明示箇所・里道・水路、基準点 **新規**



今後

- ・都市計画情報や防災情報などとの相互連携
- ・情報の更新やデータの品質向上
- ・システムの安定稼働
- ・Web公開システムの利用状況 など

より質の高い
行政サービスの提供へ

大

堺市における 3D都市モデル整備について

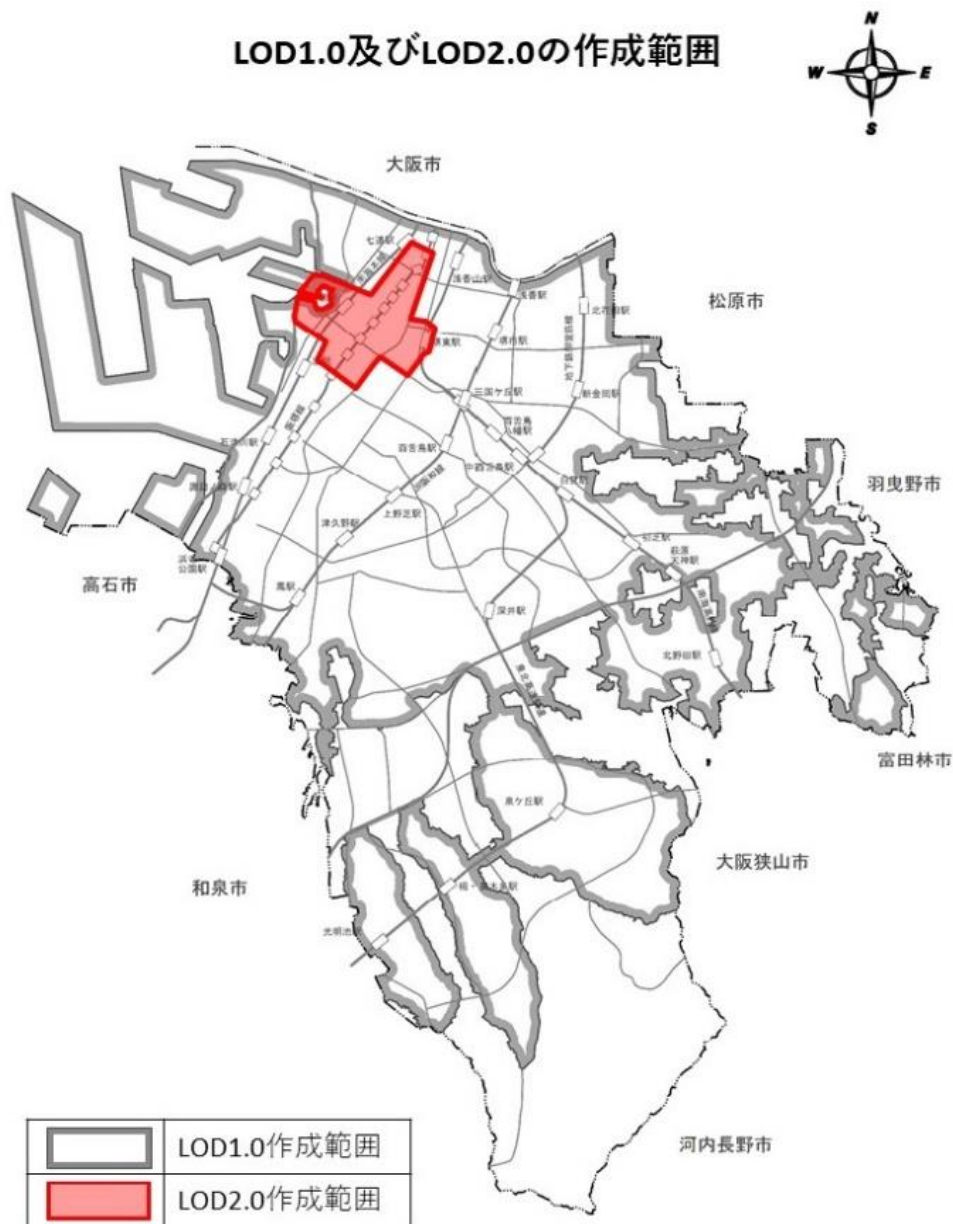


建築都市局 都市計画部

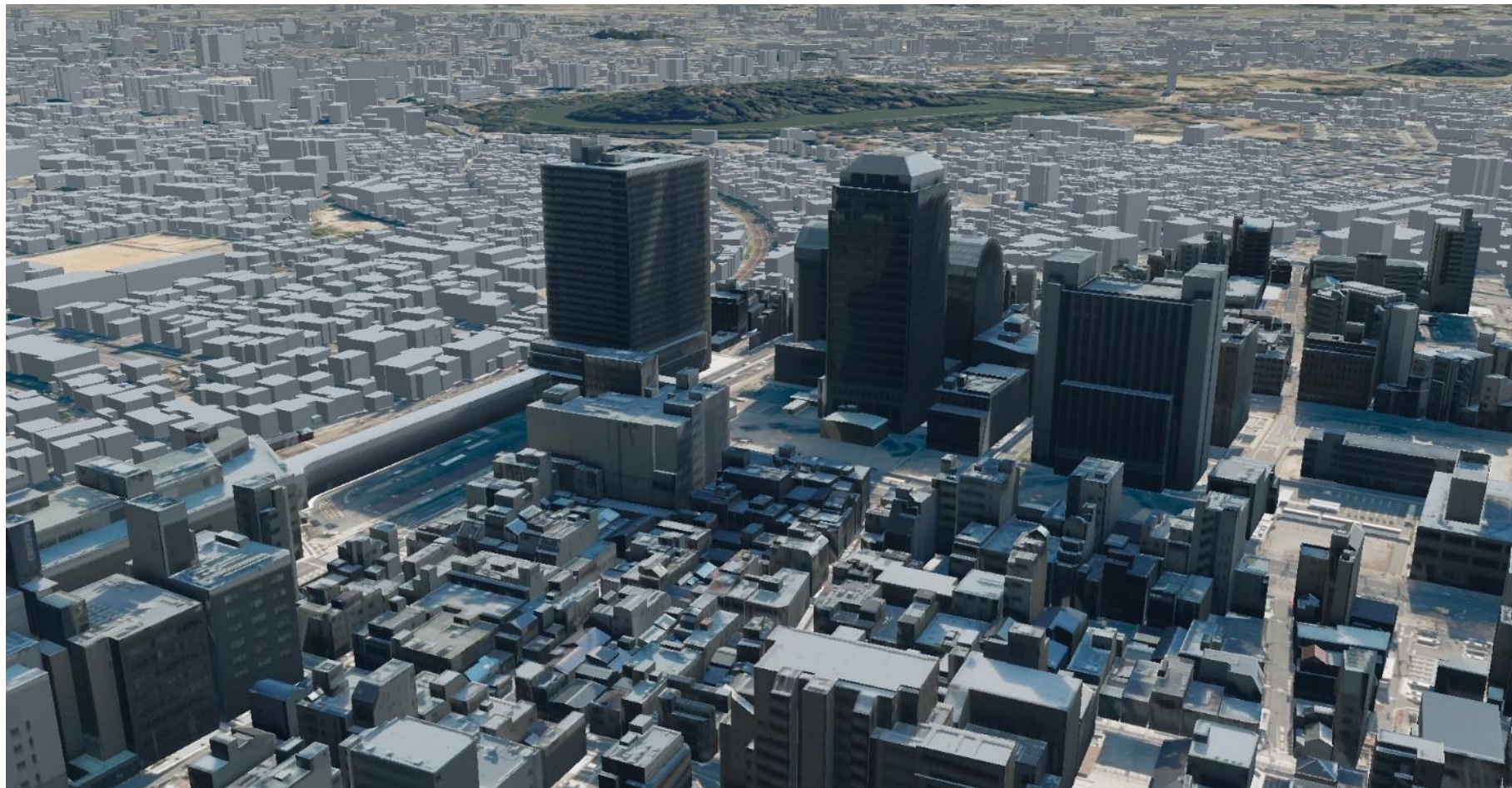
(1) 3D都市モデルの作成範囲

堺市では令和4年度に都市空間情報デジタル基盤構築支援事業を活用して、市街化区域（約107.35km²）をLOD1、市街化区域のうち多様な都市機能が集積する本市の都心地域（南海高野線堺東駅周辺から南海本線堺駅周辺に至るエリアで、両駅の周辺約4km²）をLOD2で3D都市モデルを作成した。

LOD1.0及びLOD2.0の作成範囲



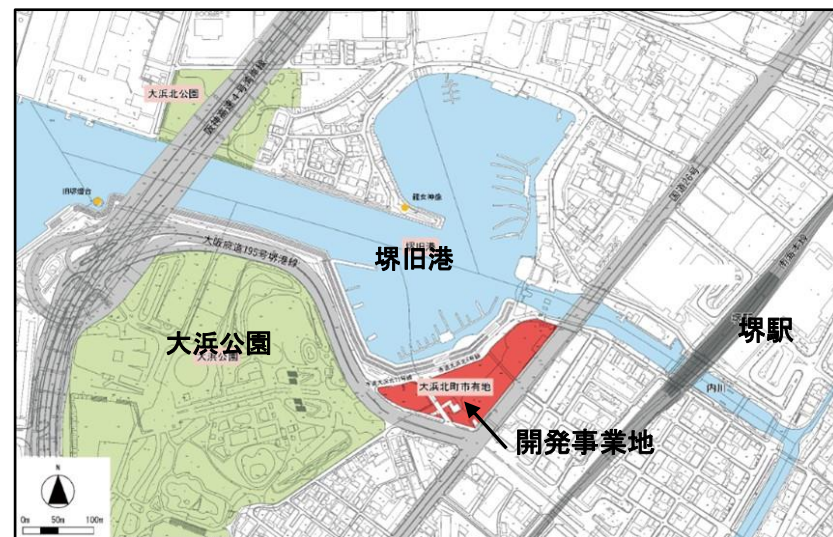
(1) 3D都市モデルの作成範囲



都心地域（堺市役所周辺）の3D都市モデル LOD2

(2) ユースケース開発事例

令和4年度のユースケース開発では堺市域における拠点となる鉄道駅周辺において新たな開発事業が進められていることから、都市計画・まちづくり分野において「事業の見える化によるまちづくりへの活用」として開発事業イメージの3D都市モデルデータを作成し、事業の可視化を行った。



開発事業地の位置と
周辺の3D都市モデル

(2) ユースケース開発事例

開発事業イメージの3D都市モデルデータ作成にあたっては事業担当課からイメージパース等の資料提供を受け、開発計画イメージデータの平面図を作成し、作成した平面図をもとにLOD2相当で3D都市モデルデータを作成した。



イメージパースを基に作成した平面図

開発事業イメージを3D都市モデル上に実装することにより、図面やイメージパースだけではわかりにくい完成後の姿がリアルに実感できると同時に周辺の建築物や風景との関係があらゆる角度の視点から確認することができ、事業後のまち並みや景観等も確認することができた。



実装イメージ

(2) ユースケース開発事例

開発イメージ（近景）



現地写真



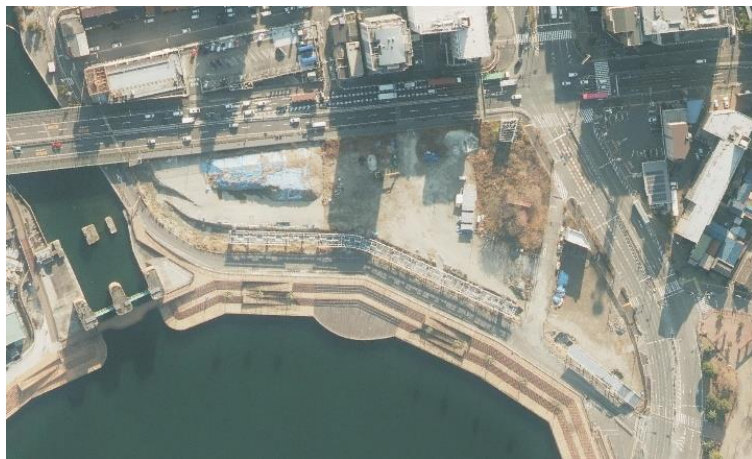
イメージパース



3D都市モデル

(2) ユースケース開発事例

開発イメージ（俯瞰）



現地写真



イメージパース



3D都市モデル

(3) 3D都市モデルの活用に向けて

令和5年3月に庁内職員向けの3D都市モデル説明会を開催した。説明会では3D都市モデルの概要説明と活用事例の紹介および本市で作成した3D都市モデルとユースケース開発の事業イメージを披露した。当日は庁内の危機管理・防災、観光、環境、まちづくり、福祉、産業、建設（道路、公園、上下水道）など様々な部門の職員が参加した。今後、庁内各部署においても3D都市モデルを活用した行政課題の解決に役立つユースケース開発を行ってもらいたいと考えている。



説明会の様子

(3) 3D都市モデルの活用に向けて

令和5年10月に本市の3D都市モデルを活用して、都市計画分野をはじめとした堺市行政のDXを推進することを目的としたアイデアソンを開催した。当日は参加者19人（現地14人、オンライン5人）が7チームに分かれてアイデアを提案した。

課題解決のアイデアやアプリケーション

そこで提案するのは、

ボーダレス～堺のイベントから世界の境をなくす～

アイデア・アプリケーションの概要：

リアル堺のアセット(観光資源/地域イベント)を
いつでもどこでもだれとでも体験

ほぼほぼ堺を"体験x観光x健康"

PLATEAU上のデータを使うことで効率よく実施可能

- 運営側の計画：文章、図での説明からよりリアルなビジョン説明が可能
- プロモーション：リアルビジョン/データを利用した視覚的アプローチが可能

リアルとバーチャルをつなぐことで、

- 遠隔地(海外も)参加の人もローカルの人との交流
- 地域特産品を購入できたりする。
- 物品の購入だけでなく、他地方の祭りやイベントのAR誘致で互いの潜在客層の掘り起こしを図る
- VRならではの演出も可能

PLATEAU



グランプリ作品【ボーダレス】

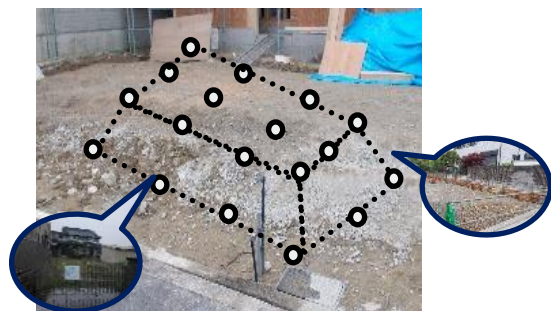
本市の魅力発信のためのオンライ（VR/AR）オンサイトを含めた、イベント支援サービス「ボーダレス」。本市で実施されるイベント運営のサポートとしてPLATEAUのGIS情報を使った、交通整備や人流シミュレーション、VRやAR技術を活用した観光体験を提供するアイデア。

会場の様子

(3) 3D都市モデルの活用に向けて

令和6年度は市街化調整区域（約42km²）の3D都市モデルをLOD1で整備している。また、ユースケース開発として3D都市モデルを活用した「盛土等現地調査管理の効率化」を実施している。盛土規制法の運用に伴い、規制区域内の範囲や対象も拡大することから、盛土等の調査及び管理を効率的に行うシステムを構築することによって業務の効率化を図る。

アウトプットイメージ



点群調査データ



アウトプットイメージ

既存の堺市3D都市モデル地形データへ現地調査時に行う盛土等の点群調査データを反映させ、その差分に対し、盛土規制法の規制対象に準じた差分がある範囲を色分け表示による可視化表示により表示させる。

2024年度 奈良文化財研究所における 取り組み事例

- ・ 奈良盆地の空中写真オルソ（昭和30年代）の公開
- ・ 文化財総覧WebGIS:時代別海面レイヤー（試験版）の実装

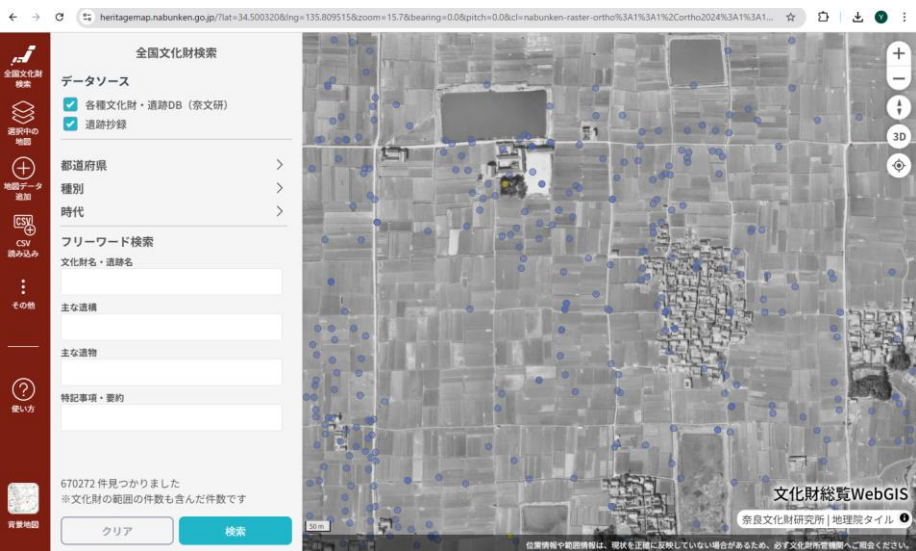


奈良文化財研究所

Nara National Research Institute for Cultural Properties

企画調整部 文化財情報研究室
高田祐一

奈良盆地(藤原京域)の空中写真 オルソ (昭和30年代) の公開



文化財総覧WebGISにて公開

G空間情報センターにデータ
登録

G空間情報センター

データセット / 組織 / カテゴリ / アプリ

組織 / 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

データセット

About

データセット検索...

2 件のデータセットが見つかりました 並び順: 最終更新日

サムネイル非表示

平城京航空写真オルソ (昭和30年代撮影)

昭和30年代に奈良文化財研究所が撮影した航空写真をオルソ化したものです。
■ortho25cmJGD2011VI・解像度を25cmに落としたTIFF+tfw形式・1ファイル・測地系はJGD2011 VI系(EPSSG:6674)

TIFF

藤原京航空写真オルソ (昭和30年代撮影)

昭和30年代に奈良文化財研究所が奈良盆地を対象に撮影した航空写真をオルソ化したものです。
■FujiwaraKyo_ortho250cm_j6_EPSG6674.tif・解像度を250cmに落としたTIFF+tfw形式・1ファイル・測地系はJGD2011 VI系(EPSSG:6674)

TIFF

有償区分

この検索にマッチする有償区分はありません

組織

独立行政法人国立文化財機構
奈良文化財研究所 (2)

カテゴリ

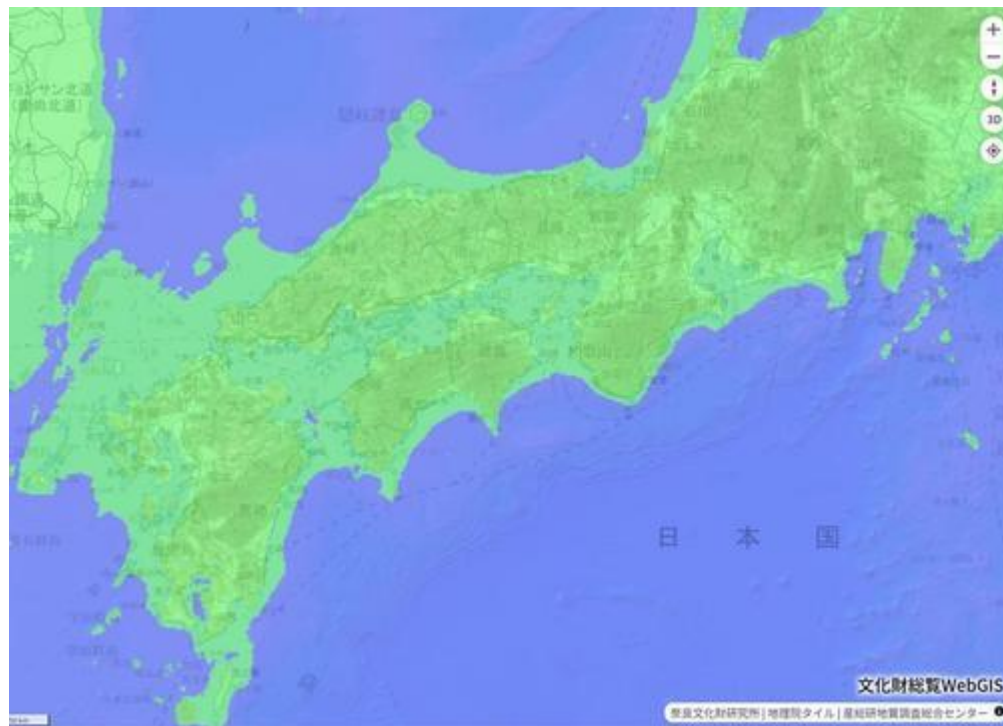
この検索にマッチするカテゴリはありません

タグ

奈良盆地 (2)

橿原市 (1)

文化財総覧WebGIS:時代別海面レイヤー（試験版）の実装

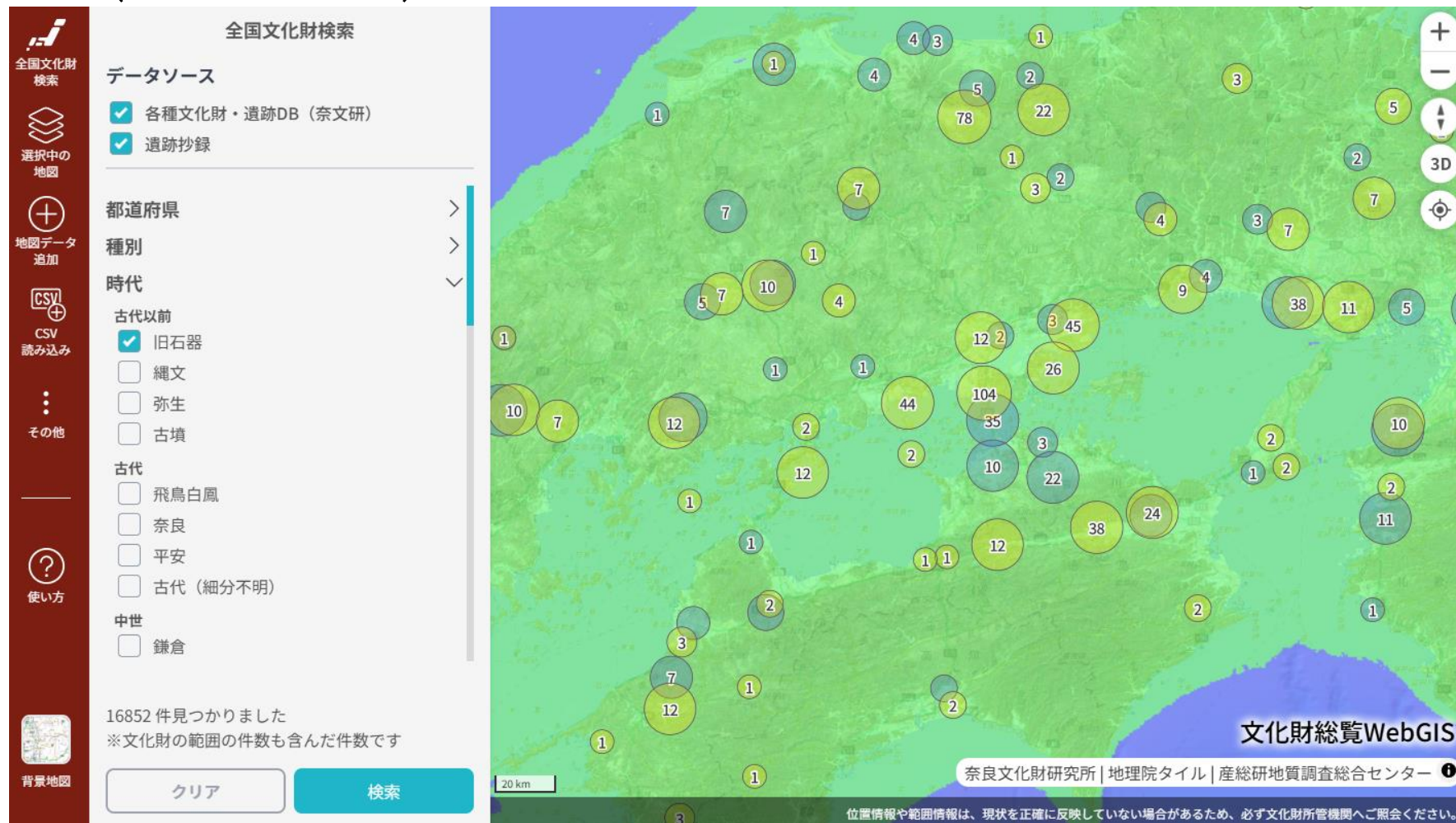


○時代別海面レイヤー（試験版）

日本では旧石器時代では海水面が現在より低く、縄文時代では現在より高い時期がありました。文化財総覧WebGISでは、各時代の遺跡を表示できますが、ベース地図も当時の地図が適切と考え、仮想的に旧石器時代および縄文時代の時代別海面レイヤー（試験版）を公開しました。試験版であって厳密性はありませんので、ご参考程度になることご注意ください。

※産総研シームレス標高タイルを使用

旧石器遺跡・後期旧石器時代 (-120m)の海面



https://heritagemap.nabunken.go.jp/?lat=34.417557&lng=133.781251&zoom=7.6&bearing=0.0&pitch=0.0&cl=historical_sea_level%3A0.47%3A1%2Cchakututtyousaku_idx%3A0.5%3A1%2Cjyobofukugen_idx%3A0.5%3A1%2Cslope%3A0.5%3A1%2Crelief%3A0.25%3A1%2Cbm=pale&bl=heritage_db_point_idx%3A1%2Cheritage_abstract_idx%3A1%2Cheritage_db_shape_idx%3A0